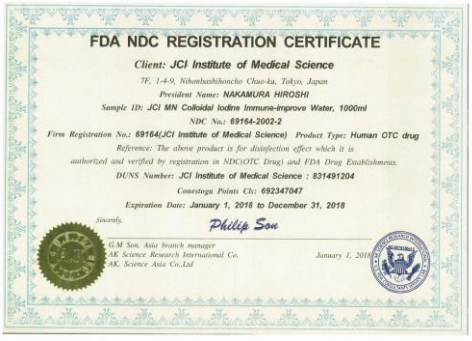
【会員医師 / 医療機関用資料】

米国FDA（NDC/Human OTC Drug認証取得）
JCI MNコロイダル・アイオダイン（C.I.M.N.）

臨床研究会・治療プロトコル/46症例


FDA NDC REGISTRATION CERTIFICATE

Client: JCI Institute of Medical Science

7F, 1-4-9, Nihonbashihoncho Chuo-ku, Tokyo, Japan

President Name: NAKAMURA HIROSHI

Sample ID: JCI MN Colloidal Iodine Immune-improve Water, 1000ml

NDC No.: 69164-2002-2

Firm Registration No.: 69164(JCI Institute of Medical Science) Product Type: Human OTC drug

Reference: The above product is for disinfection effect which it is authorized and verified by registration in NDC(OTC Drug) and FDA Drug Establishments.

DUNS Number: JCI Institute of Medical Science : 831491204

Comstorga Points Ch: 692347047

Expiration Date: January 1, 2018 to December 31, 2018

Sincerely,

Philip Son

G.M Son, Asia branch manager

AK Science Research International Co.

AK. Science Asia Co.,Ltd

January 1, 2018


Drug Facts

Serving Size 30ml

Serving Per Container 30(Total 1,000ml)

Amount Per Serving :	%DV
Sodium Iodide 2%	†
Potassium Iodide 1%	†
Hydrogen Water 97%	†

* Percent Daily Values are based on a 2,000 calorie diet.
† Daily value not established.

Ingredients : Sodium Iodide, Potassium Iodide
Other Ingredients : Hydrogen water

Active ingredients Sodium Iodide

Uses Disinfection effect

Warning ・Do possibly avoid the food containing an antioxidant and color additives ・Do take the greatest possible care to eggs, milk, cheese and tuna ・Do take before meal. In case of other medicine dose, do take colloidal iodine within an hour before you take other medicine ・Do eat nothing within five minutes after the dosage ・Keep out of the direct sunlight

Direction ・It is better to dose on an empty stomach ・The dosage on undiluted solution is possibly recommended ・Do eat nothing within five minutes after the dosage ・Unit dose is 30ml ・Do take unit dose three times a day before each meal (morning, daylight, evening) ・Keep this dose guide for a month ・If effective, do change the unit dose twice a day before each meal (morning, evening) ・Do discuss with your doctor for further dose

Other information ・Do not use for ophthalmology because the safety for such use is not yet examined Keep in a room temperature ・Keep out of the direct sunlight

Inactive Ingredient Potassium iodide, hydrogen water

Manufactured for
JCI INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE 2-7-11, Oi, Shinagawa-ku, Tokyo, 140-0014, Japan (+81-3-3778-3287)

EXP. 25 / 07 / 2020

＜お問い合わせ先＞一般社団法人 日本先進医療臨床研究会

〒103-0028　東京都中央区八重洲1-8-17-6F

TEL: 03-5542-1597　FAX: 03-4333-0803

※ご注意：本製剤の一般販売は行っておりません。

2012年の日本の死因別の死亡数は、がんが36万1000人で、1981年から第1位をがんが占めており、約2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡するという現実に直面しています。次いで心疾患(19万6000人）、肺炎(12万3000人）、脳血管疾患(12万1000人）の順となっており、この上位4疾患で全死亡数の6割強を占めています。肺炎は高齢化を反映し2011年から死因の3位以内に浮上しています。しかしながら、がんはいまだ画期的な治療法が見つかっておりません。

また、多くの方々が原因不明で治療方法が未確立の難病に苦しんでいます。JCI MNコロイダル・アイオダイン製剤（以下、「C.I.M.N.」)は、がんや難治性疾患に苦しむ多くの患者さんを救うため開発されました。

統合医療とコロイダル・アイオダイン療法

現代医療においては、薬の薬効に期待した“対症療法”が中心に行われておりますが、人間が本来持っている免疫力を高め、また自然治癒力を引き出す“根本療法” あるいは“原因療法”が注目されています。

C.I.M.N.は新陳代謝機能を活性化し、免疫力を高め自然治癒力を引き出す効果が非常に高く、以下の病状の改善に作用します。

・末期がんを含む各種がん
・血管障害（脳・心臓など）
・自己免疫疾患、アレルギー疾患
・ウイルス性疾患（エイズを含む）
・てんかん等の脳疾患
・糖尿病、腎臓病
・その他難治性疾患

このほか、健康維持、病気の予防等への効果が期待できます。

コロイダル・アイオダイン（Colloidal Iodine）とは？

人間の体内には細胞の生命力となるエネルギーを作り出す32種類の必須ミネラル・金属元素と、それとほぼ同数の微量ミネラルと微量金属元素が存在しています。ヨード（ヨウ素）は元素です。

コロイド化学とはこれらの物質を極細かくし、生物細胞が利用できる大きさに変換する化学です。自然な状態では、これらの物質はコロイド状で細胞に供給されますが、現在では化学的にコロイド状物質を生成することが可能になりました。

ヨード（ヨウ素）は体内ではそのほとんどが甲状腺に存在し、甲状腺ホルモンの主原料です。甲状腺ホルモンは新陳代謝や成長の促進、栄養分の吸収、エネルギーを作る働きをするため、体になくてはならないホルモンの一つです。

C.I.M.N.はこのコロイド化学の応用により、人体を構成する組織細胞に供給しやすく極細し、細胞に必須元素を取り入れやすい状態に作られています。元素であるヨード（ヨウ素）を水素と結合させコロイド化することにより、ヨードが持つ毒性をなくし細胞が利用できるようにしたものです。

※コロイド状：分子より大きいが普通の顕微鏡では見えない状態で直径10^{-9}～10^{-7}cm程度の粒子が気体、液体、固体中に分散している状態。

優れた効能と安全性

多くのがん患者さん（そのほとんどがステージ３以降の進行がんや末期がん）やその他の疾患の患者さんが、C.I.M.N.で劇的に回復しています。また、これまでの治療にみられる下表のようなデメリットとしての副作用も少なく、約10年にわたる治療経験からその安全性が確認されています。最近では、より多くの医師がC.I.M.N.の効能に関心を抱き、医師、医療関係者による使用例も増え、がん、血管障害、その他の病状の治療に対し驚くべき回復結果を出しています。

従来の がん治療法	対象	メリット	デメリット
外科手術	局所	初期の癌に対して有効	身体へのダメージが大きく他の場所にがん細胞があると再発の可能性がある
放射線治療	局所	外科手術が困難な部位へも治療可能な場合がある	放射線が効きにくいタイプのがんもある
化学療法	全身	急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫などで有効	単独では完治できず副作用を伴うことが多い
C.I.M.N.	全身	癌細胞だけを殺傷し、正常細胞に副作用なく、逆に活性化させる。	ほぼない。

C.I.M.N. の優れた点

1、がん細胞のみを殺すことができる
2、正常細胞を傷つけない。むしろ、活性化させる
3、副作用（薬害）が少ない
4、耐性がない
5、体内での蓄積性がない

上記のように、C.I.M.N.はがん細胞のみを殺すことができ、正常細胞を傷つけないうえ、活性化させます。さらに副作用も少なく、耐性や体内での蓄積性もありません。一方、抗がん剤等に対しては、がん細胞は耐性を持つようになります。また、C.I.M.N.は体内での蓄積性もありません。体内での作用時間は2時間であり、その後は尿とともに体外に排出されます。そのため2時間おきの服用が望ましいですが、体内での蓄積性がなく、安全性が高いと言えます。一方、抗がん剤は種類にもよりますが、体内から安全に排出されるのに2年程度が必要であると言われています。

治療中の反応

- 発熱
- 皮膚の湿疹など
- 下痢
- リンパ節の腫れ
- 局所の疼痛
- 腫瘍マーカー値の急激な上昇

治療中には上記のさまざまな好転反応が起こることがあります。全身的な発熱は、とくに注射による治療を行った際に、また、局所の疼痛はがんのある箇所で起こります。しかしながら、これらの好転反応は一時的なもので、時間の経過とともに軽減・消失します。腫瘍マーカー値の急激な上

昇は、腫瘍細胞が一気にたくさんの数壊れた際に、がん細胞が持っている腫瘍マーカーが一気に放出され、これが血液の中に入ることで起こることによるもので、ときに値は一気に3倍から5倍上昇します。

C.I.M.N.の投与方法

患者さんの病状に合わせ、以下の方法を組み合わせて投与します。

・内服

C.I.M.N.は基本的には内服で摂取します(30ml/回）。内服用のC.I.M.N. には通常使用するC.I.M.N.500ml内服液と病気の予防や再発予防を目的とした濃度の薄い、C.I.M.N.1000ml予防内服液の2種類があります。C.I.M.N.のバイオアベイラビリティ（薬物体内動態）は約2時間なので、C.I.M.N.500ml内服液は30mlを2時間毎に1日8回服用します。また体重が100㎏を超えるような方の場合は1回の飲料を50ml程度に増量します。

・血管内注射・点滴

注射と点滴はとくに白血病や末期がんに対して効果的です。また、食道がんや胃がんの患者さんで経口摂取が困難である方、あるいは短期間での治療効果を望まれる方に適しています。点滴は1回に50mlアンプル×4本（＝200ml）を1時間で滴下しますが、点滴時の刺激痛がある方の場合は100ml程度の生食と混ぜて2時間程度で滴下します。

・吸入

C.I.M.N. を霧状にし、吸入器を用いて吸入します。肺がんや気管支喘息の患者さんに効果的です。

その他、以下の方法が研究段階にあります。
- 胸腔内、腹腔内注入（胸水、腹水）
- 注腸（直腸がん等）
- 膣内注入（子宮頸がん）
- 膀脱内注入（膀脱がん）
- 局所注入（注射器による患部への直注、またはIGT療法による併用治療）

がん集学的治療に置けるコロイドヨ ード剤使用の目的

- 発がんメカニズムが genetic/epigenetic いずれの場合においても、がん細胞におけるアポトーシス機能は喪失されている。アポトーシス機能の中心となるのが Mt（ミトコンドリア）であるが、 コロイドヨード剤は Mt 機能を正常化しアポトーシス機能を修復する。
- もう一つの効果は、ウイルス性発がんと考えられる病態においての抗ウイルス効果によるがん増殖抑制である。
- さらに電子レベルでの抗腫瘍効果も期待できる。
- Mt 活性化による PS レベルの向上により QOL の改善を図ることができる。

JCI MN コロイダル・アイオダイン(C.I.M.N.) のご紹介

	JCI MNコロイダル・アイオダイン内服液(500ml) （NDC：69164-2001-1/Product Type=Human OTC Drug） ・がん、難治性疾患、その他疾患全般、末期がんを含む各種がん、血管障害（脳・心臓など）、自己免疫疾患、アレルギー疾患、ウイルス性疾患（エイズを含む）、てんかん等の脳疾患、糖尿病、腎臓病、その他難治性疾患
	JCI MNコロイダル・アイオダイン予防内服液(1,000ml) （NDC：69164-2002-2/Product Type=Human OTC Drug） 上記疾患の予防、再発予防等
	JCI MNコロイダル・アイオダイン注射・点滴液(50ml) （NDC：申請中/※FDAにて臨床試験中） ・がん、難治性疾患、その他疾患全般、末期がんを含む各種がん、血管障害（脳・心臓など）、自己免疫疾患、アレルギー疾患、ウイルス性疾患（エイズを含む）、てんかん等の脳疾患、糖尿病、腎臓病、その他難治性疾患
	JCI MNコロイダル・アイオダインクリーム(30g) （NDC：69164-1002-1/Product Type=Human OTC Drug） ・皮膚疾患全般：湿疹、皮膚炎群（進行性指掌角皮症、脂漏性皮膚炎を含む）、乾癬、掌せき膿ほう症、アレルギー性皮膚炎、主婦湿疹、蕁麻疹、その他皮膚感染症 ・皮膚における外的病変：擦過傷、外傷、熱傷、手術創、日焼け、ひげそり後、薬物性皮膚炎（各種薬物、化粧品等）、接触性皮膚炎、金属アレルギー、頭皮の病変等 ・皮膚の加齢性変化：しわ、しみ、くすみ、あれ ・化粧用下地〇口唇の病変（あれ、外傷等）
	JCI MNコロイダル・アイオダイン点眼液(30ml) （NDC：69164-3001-1/Product Type=Human OTC Drug） ・眼科疾患全般および下記疾患に対しての予防 疲れ目、飛蚊症、緑内障、ドライアイ、感染症等
	JCI MNコロイダル・アイオダイン吸気用(50ml) （NDC：申請中/※FDAにて臨床試験中） ・呼吸器疾患全般、（ネブライザーにての使用を推奨）

（C.I.M.N）の内服及び注射・点滴による回復症例

症例１	52 歳男性　切除不能直腸がん
症例２	81 歳女性　切除不能胃がん
症例３	95 歳男性　切除不能胃がん
症例４	75 歳女性　切除不能膵臓がん
症例５	83 歳男性　切除不能食道がん
症例６	64 歳男性　肝内胆管がん
症例７	70 歳男性　切除不能スキルス胃がん
症例８	79 歳女性　切除不能胃がん
症例９	48 歳男性　切除不能食道がん
症例 10	55 歳女性　切除不能膵臓がん肺転移～がん性腹膜炎
症例 11	63 歳女性　再発胃がんがん性腹膜炎腹膜播種
症例 12	63 歳女性　乳がん再発がん性リンパ管症
症例 13	63 歳男性　肝細胞がん
症例 14	72 歳男性　切除不能胃がん・　肝転移
症例 15	77 歳女性　両下腿難治性皮膚潰瘍
症例 16	75 歳女性　顔面帯状疱疹後遺症
症例 17	92 歳女性　慢性リンパ球性白血病
症例 18	60 代男性　胃がん
症例１９	30代男性　胃がん
症例２０	70代男性　咽頭がん
症例２１	60代男性　咽頭がん
症例２２	50代男性　es状結腸がん
症例２３	60代女性　原発不明がん
症例２４	50代男性　口腔がん
症例２５	20代女性　子宮がん
症例２６	40代女性　子宮がん
症例２７	30代女性　歯肉がん
症例２８	80代男性　十二指腸がん
症例２９	40代女性　食道がん
症例３０	50代男性　食道がん
症例３１	50代男性　腎臓がん
症例３２	70代男性　前立腺がん
症例３３	60代男性　大腸がん
症例３４	60代女性　直腸がん
症例３５	40代女性　乳がん
症例３６	20代女性　乳がん
症例３７	50代女性）乳がん
症例３８	60代男性）肺がん（腺がん）
症例３９	30代女性）悪性リンパ腫
症例４０	30代女性）悪性リンパ腫
症例４１	20代女性）てんかん
症例４２	70代女性）認知症
症例４３	60代女性）白血病
症例４４	60代男性）脳血栓
症例４５	50代男性）脳梗塞
症例４６	60代男性）脳腫瘍

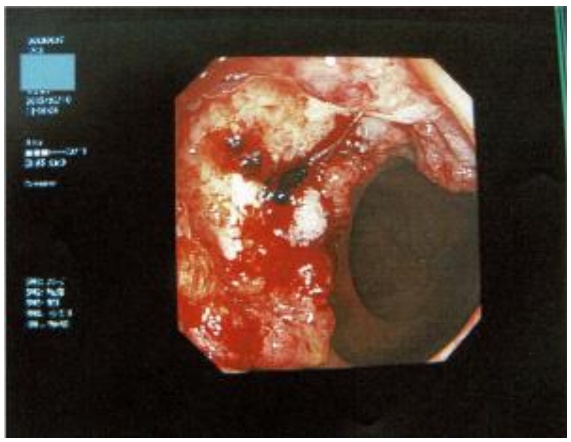
症例 1.　52 歳 男性 切除不能直腸がん

病状：2015 年下血あり精査にて直腸がんを発見される。 すでに肺、 背髄に転移あり切除不能の診断を受け当科にて温熱化学療法とコロイドヨード治療施行となる。

治療：化学療法としてゼローダ 900mg/day、ハイパーサーミア 10 回施行。 同時にコロイドヨード点滴 200ml X 2/ day 10 日間施行した。

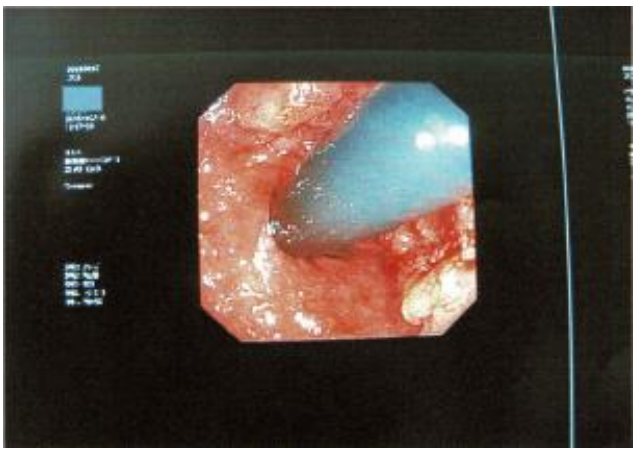
結果：下血を伴う巨大腫瘍病変は、治療後 1 ヶ月で 50%縮小し、3 ヶ月後にわずかの病変のみとなる。肺、背髄の転移の増大は見られなかった。

考察：がんに対するコロイドヨード点滴療法は、低用量化学療法の奏功率を高め腫瘍縮小効果発現が概ね 4 週間以内であること、副作用なく安全に投与できることが証明された。



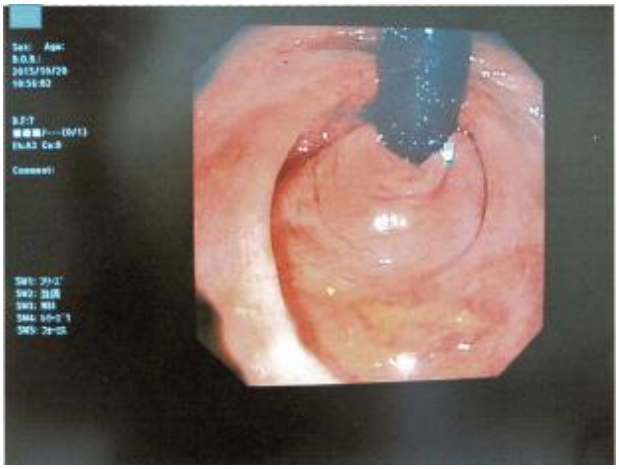
←治療前

治療
1 か月後
→



←治療
2 か月後

治療
3 か月後
→



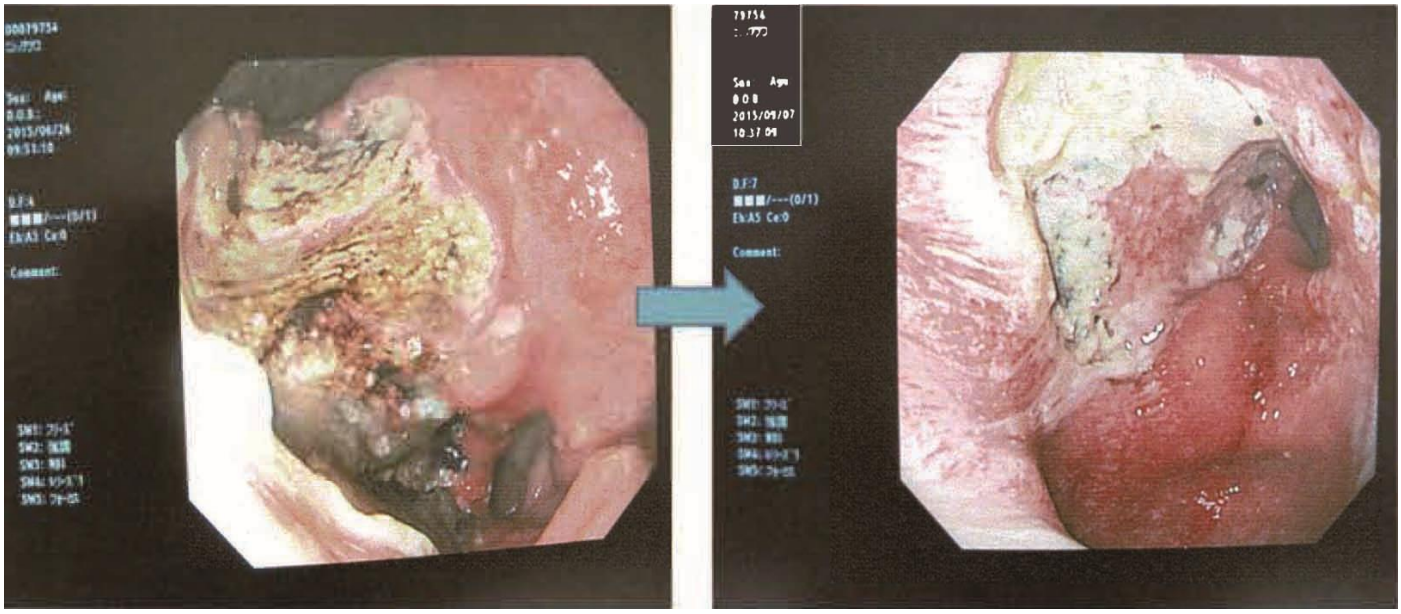
症例 2.　81 歳女性切除不能胃がん

病状：食欲不振、体重減少のある 81 歳女性。胃内視鏡にて胃角部から前庭部にかけての広範囲の腫瘍病変を認めた。高齢と全身状態不良があり切除不能と診断され、低用量化学療法とハイパーサーミア及びコロイドヨード療法施行となる。

治療：化学療法として TS-1 60mg/ day 内服とハイパーサーミア 10 回施行、併せてコロイドヨード点滴 200ml X 2/ day 10 日間施行した。

結果：腫瘍病変の著しい縮小と止血が認められた。治療後 3 週間目より経口摂取も可能となる。

考察：がんに対するコロイドヨード点滴療法は、リスクの高い合併症のある高齢者に対しても安全に投与可能であることが証明された。



症例 3.　95 歳 男性 切除不能胃がん

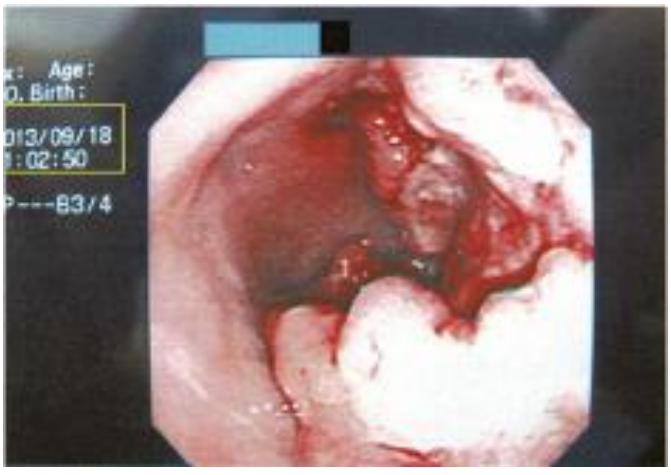
病状：吐血にて救急搬送された 95 歳男性。 緊急内視鏡にて胃前庭部に大きな出血性潰瘍病変を伴う胃がんを発見される。 高齢と心不全により切除不能の診断を受け低用量化学療法とハイパーサー ミア及びコロイドヨ ード点滴療法施行となる。

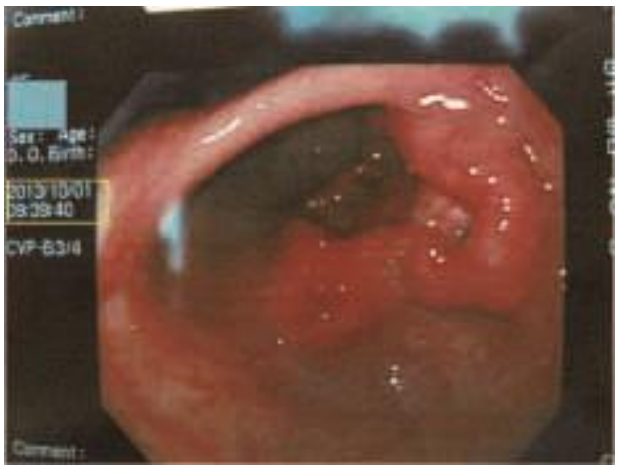
治療：化学療法としてアブラキサン 150mg とハイパーサーミア 10 回施行及びコロイドヨ ード点滴 100ml X 2/ day 10 日間施行した。

結果：コロイドヨード点滴療法の併用によりわずか 2 週間で腫瘍病変の著しい縮小と吐血効果が認められた。

考察：コロイドヨード点滴療法の併用は、 化学療法の効果を増強し副作用もなく高齢者にも安全に投与可能であることが証明された。

2013.9.18　⇒　2013.10.1





アルブミン懸濁型パクリタキセル注射薬

（アブラキサン： 150mg）

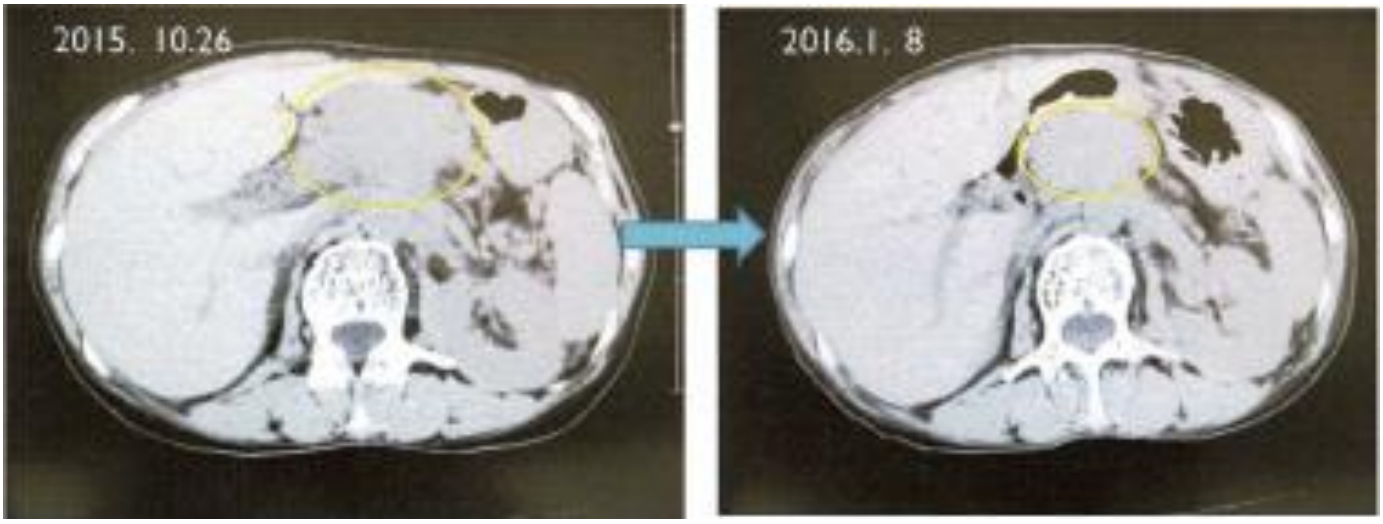
症例 4.　75 歳女性 切除不能膵臓がん

症状（治療経過）：2015 年 3 月切除不能ステージ Nb 膵臓がんの診断を受ける。 化学療法受けるも効果なく、2015 年 10 月より当科にて温熱化学療法及びコロイドヨード剤治療開始となる。 4 週間後、 CT 画像にて腫瘍の著しい縮小と腫瘍マーカー(CA19-9)の改善を認めた。

治療：アブラキサン 150mg+ GEM600mg 3 週 1 回 2 クール。 温熱治療 10 回コロイドヨ ード点滴 200ml X 10 日間施行した。

結果：CT 画像にて、 腫瘍の著しい縮小と CA19-9：2, 350 から 897 に減少した。

考察：コロイドヨ ード剤の投与は、 化学療法の効果を増強し且つ副作用を軽減し温熱化学療法の施工を安全且つ有効にする効果があると考えられた。



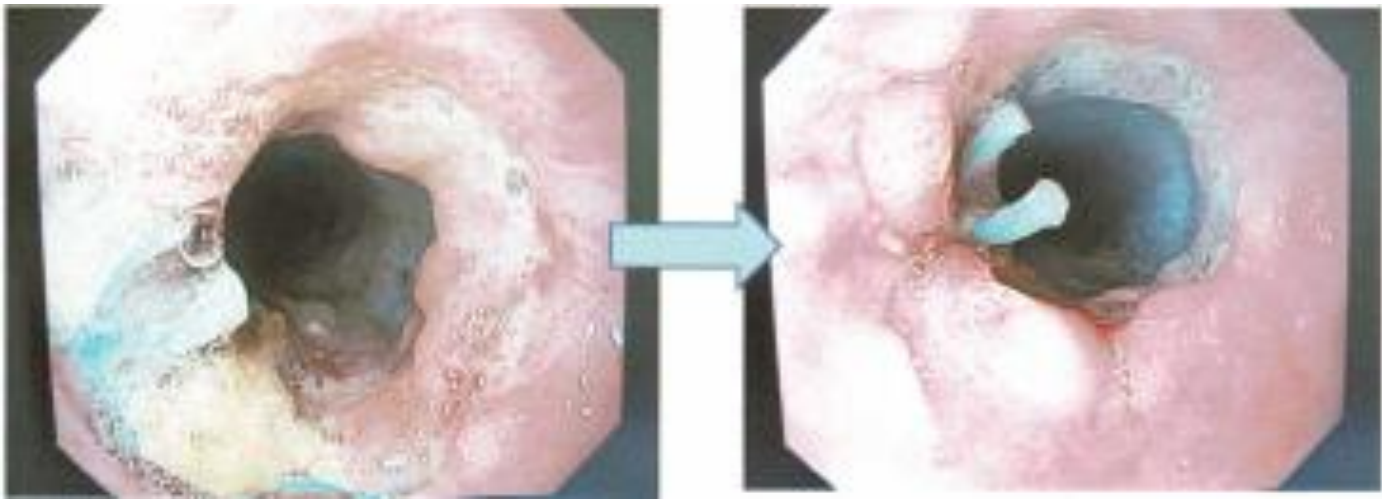
症例 5.　83 歳男性 切除不能食道がん

治療経過：2014 年 5 月食道がんの診断あり切除不能にて放射線治療と化学療法を受ける。 その後食道狭窄状態出現にてステント留置となる。 その後も食事摂取障害など続き、 2015 年 9 月当科にて温熱化学療法及びコロイドヨード剤治療 を施行する。 治療後、 狭窄状態の改善あり食事摂取状態の改善を認めた。

治療：アブラキサン 120mg+CBDCA150mg 3 週 1 回 2 クール。温熱治療 10 回、コロイドヨード点滴 200ml X 10 日間施行する。

結果：食道腫瘍の縮小と狭窄状態の改善、 腫瘍マーカーの改善を認めた。

考察：コロイドヨード剤の投与は、化学療法の効果を増強し副作用を軽減する効果があり、 温熱化学療法を安全に且つ有効に行うことができた。



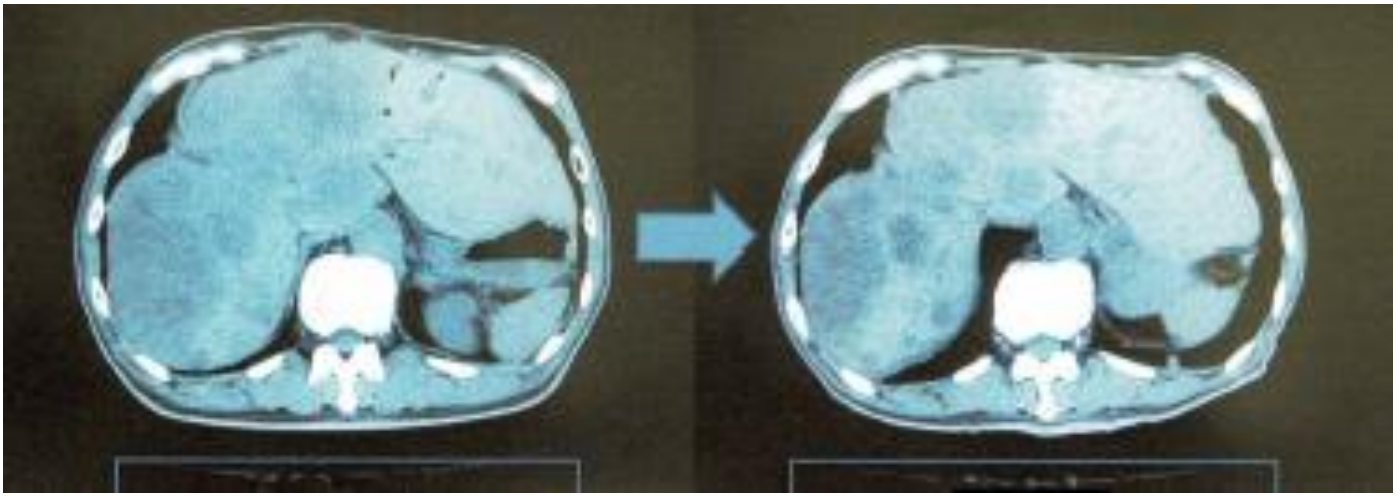
症例 6.　64 歳 男性　肝内胆管がん

治療経過： 2014 年 9 月肝内胆管がんの診断を受け東京医大付属病院にて切除手術を受ける。2015 年 7 月再発あり国立がんセンターにて化学療法を受けるも効果なく、2015 年 1 月 7 日当科入院にて温熱化学療法＋コロイドヨード点滴施行する。治療後改善にて 2016 年 2 月 14 日退院となる。

治療：アブラキサン 120mg 十オキサリプラチン 150mg を 3 週 1 回で 2 クール
コロイドヨード点滴 200mLXl/day 10 日間施行。

結果：治療後 4 週間で CT 画像の著明改善が認められた。治療に伴う副作用を認めなかった。

考察：肝内胆管がんは、肝細胞がんの化学療法と違い膵臓がんと同じものが効果的である。この症例でも、アブラキサンとオキサリプラチを使用したが、コロイドヨード剤を併用することにより、化学療法の副作用が軽減され且つ効果は増強され 4 週間後という極めて早い効果発現を認めた。



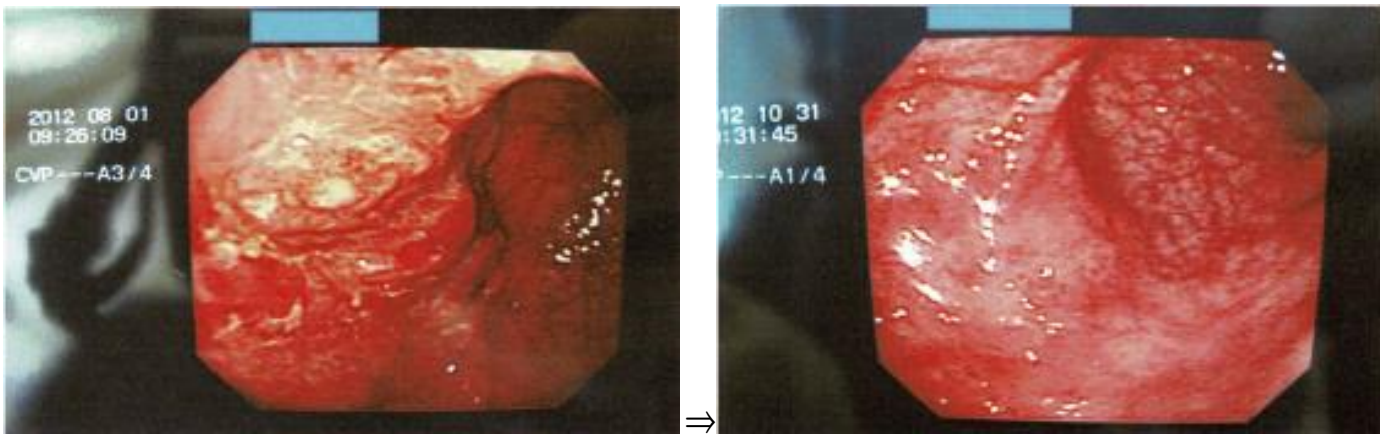
2016.1.7 → 2016.2.1

「アブラキサン：120mg＋オキサリプラチン：150mg、コロイドヨード剤：200ml/ day I O 日間点滴静注併用」

2016.3.3

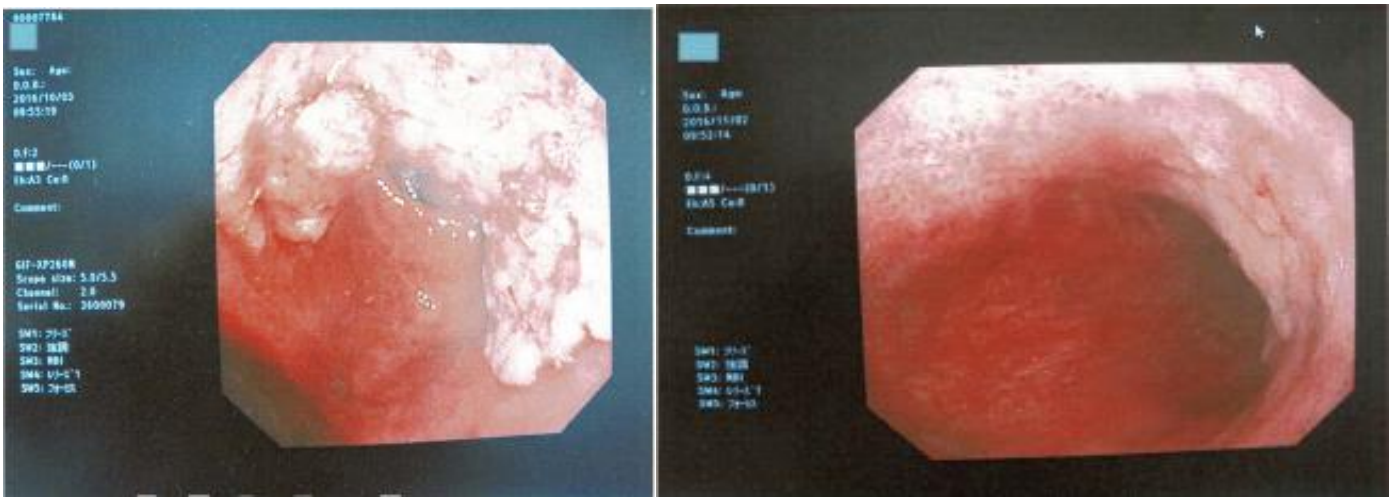
退院後は、飲用コロイドヨード剤のみ。
化学療法では改善困難な胆管癌においてコロイドヨード剤併用にて、著しい改善が認められた。

<u>症例７．70 歳 男性 切除不能スキルス胃がん</u>



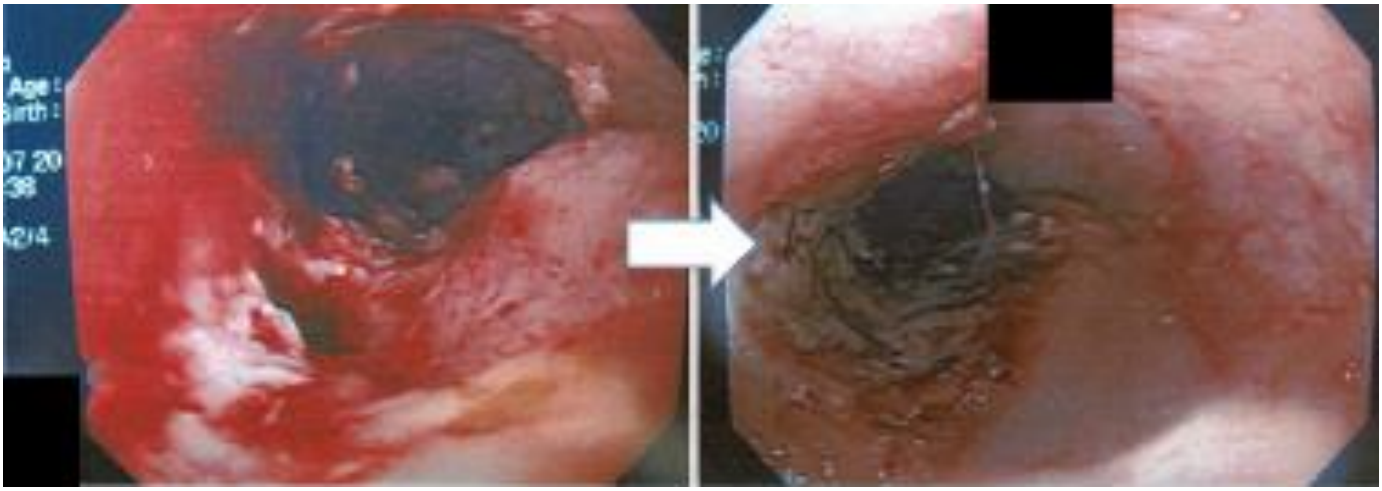
TS-I 80mg/ day 内服と飲用コロイドヨード剤使用　　胃内粘膜病変の改善が認められた

症例8．79 歳 女性 切除不能胃がん



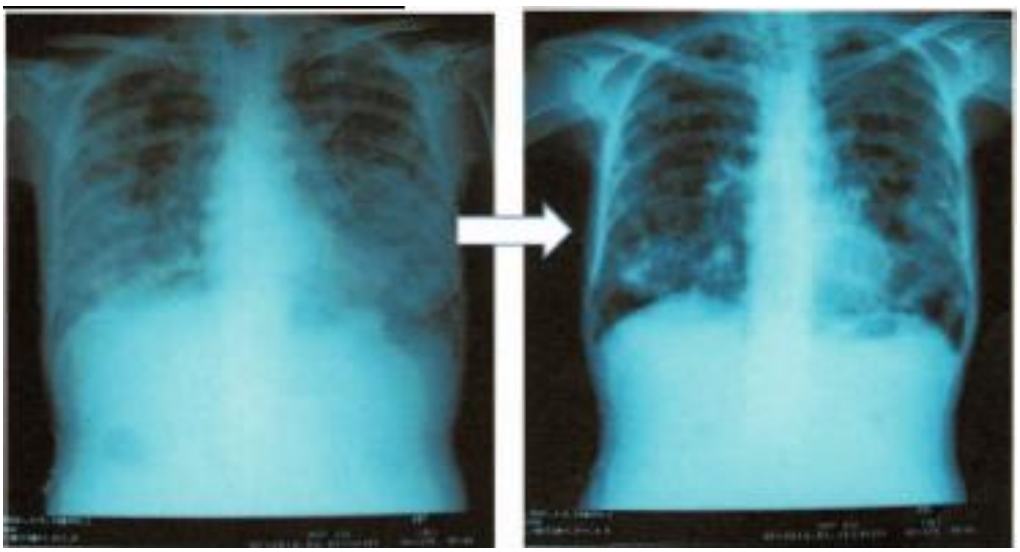
アブラキサン 120mg＋オキサリプラチン 150mg　→ 胃内病変の改善が認められた
２クール。コロイドヨード 150ml/day 点滴
を 10 日間それ以後は飲用コロイドヨード剤。

症例9．48 歳 男性：切除不能食道癌



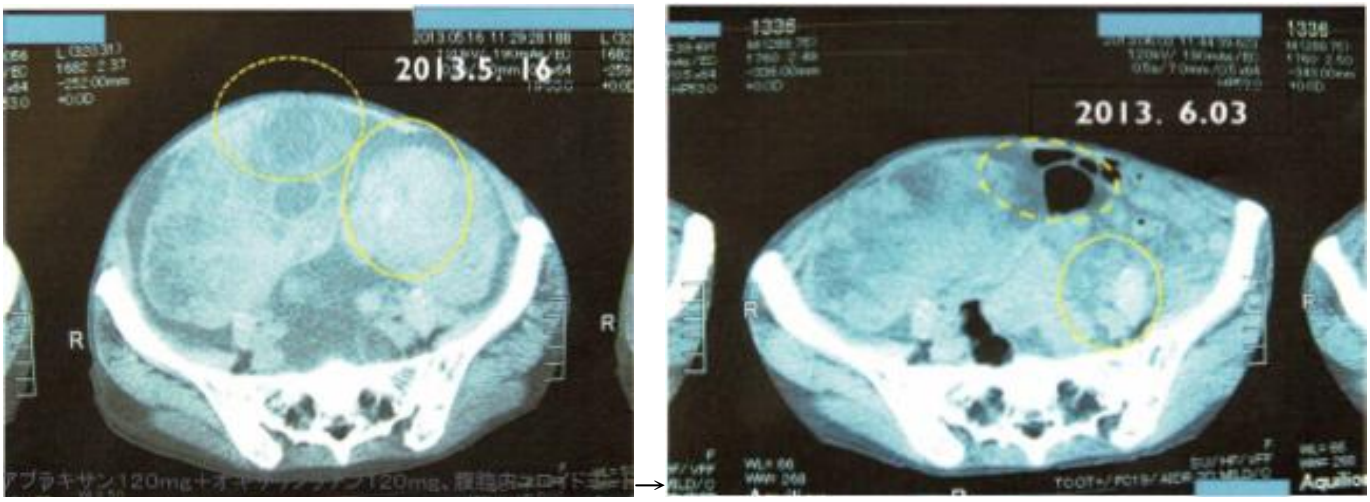
TS-1：100mg/ day コロイドヨード剤　　→病変の縮小と出血の停止が認められた。
200ml/day 点滴 10 日間、飲用併用。

症例 10．55 歳女性　切除不能膵臓がん肺転移～がん性腹膜炎



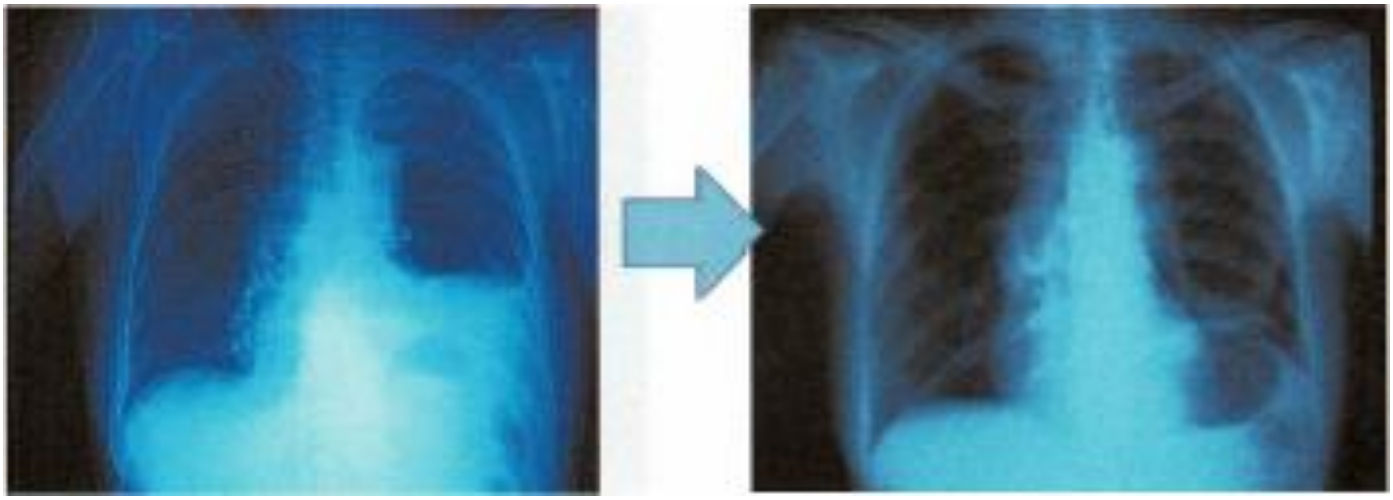
コロイドヨード剤
200ml/day 点滴 10 日間、コロイドヨード剤吸入併用。
肺転移の改善と左側胸水の減少が認められた。

症例 11．63 歳女性　再発胃癌がん性腹膜炎腹膜播種



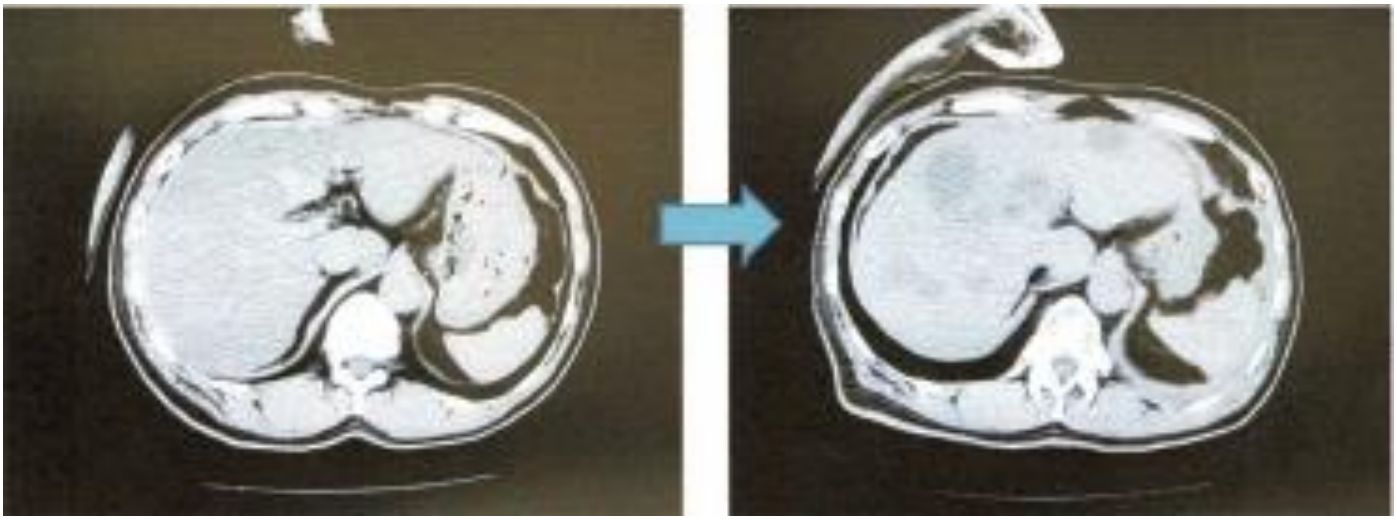
アブラキサン 120mg＋オキサリプラチン　→　腹水軽減、イレウス状態改善が認められた。
150mg、腹腔内コロイドヨード剤注入。

症例 12．63 歳 乳がん再発 がん性リンパ管症



TNBC 症例、ハラヴェン使用。コロイドヨード剤 200ml/day 点滴 10 日間

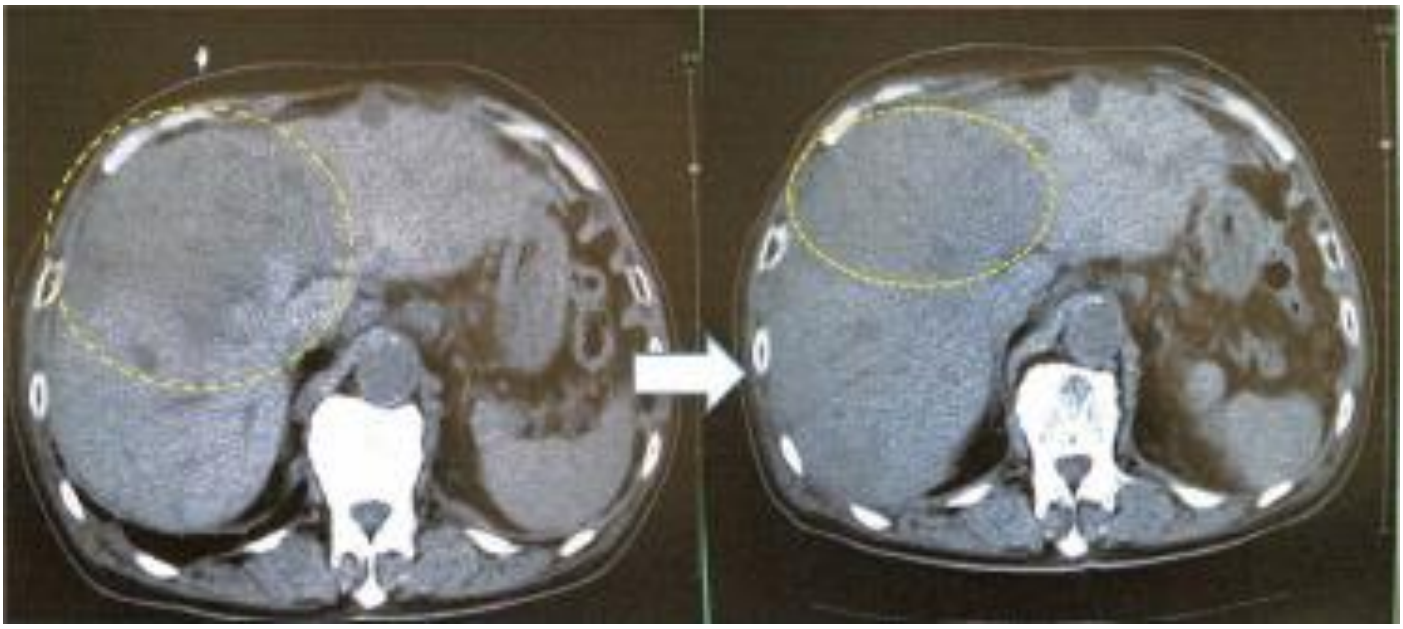
症例 13．63 歳 男性：肝細胞がん（＊脂肪肝から発症した肝細胞がん）



右葉全体に及ぶ腫瘍病変であったが、コロイドヨード剤 200mlX10 日間点滴、その後飲用ヨー

ド剤継続にて著名な改善を認めた。

症例 14．72 歳男性 切除不能胃癌：肝転移



H26.2.7 → H26.2.27

コロイドヨード剤 200ml/day 点滴 10 日間その後飲用ヨード剤継続にて、肝右葉の巨大腫瘍であったが著名な縮小が認められた。

症例 15. 77 歳女性 両下腿難治性皮膚潰瘍

症状と経過：慢性心不全、多発性関節リウマチにて加療中であったが、2014 年 2 月頃より両下腿の難治性潰瘍を発症する。 2015 年 8 月頃には両下腿に広範な潰瘍化が進み、一時は切断も考慮される状態であった。 2015 年 9 月よりコロイドヨード剤の含浸ガーゼによる処置を 1 日 2 回施行となる。2016 年 2 月には肉芽形成が良好となり、 病変部の著しい縮小を認めた。

考察：難治性皮膚潰瘍は、有効な治療手段がなく PRP（多血小板血漿）療法などが試みられていますが、 簡便な皮膚科的処置で効果を得ることができるコロイドヨード剤は、難治「生の褥瘡処置にも効果があり有用な治療手段であると考えられた。

症例 16．75 歳女性 顔面帯状疱疹後遺症

症状と経過：2015 年 11 月 20 日左前額部の発赤に気付くも放置。2015 年 11 月 23 日疼痛と皮膚病変の悪化あり帯状疱疹の診断にて入院加療となる。抗ウイルス剤投与と皮膚病変の処置を行い、第 7 病日にて退院となるも前額部の赤紫色の色素沈着、疼痛が残存し、外来にて経過観察していたが改善なく、2016 年 1 月 30 日よりコロイドヨ ード剤飲用にて速やかに症状の改善があり、同疾病には非常に有効であるとの印象を持った。
考察：コロイドヨード剤は開発当初より様々なウイルス性疾患に対する効果を指摘されていたが、さらに投与範囲を広げて適応拡大を図っていきたい。

症例 17．92 歳女性 慢性リンパ球性白血病

治療経過： 2014 年 6 月慢性リンパ球性白血病の診断受けるも高齢に加えて心不全もあり化学療法施行せず経過観察していたが、2016 年 2 月白血球数 23 万となり心不全増悪あり入院加療となる。2 月 12 日よりコロイドヨード剤 200ml X 1 回 /day 開始する。 2 月 27 日白血球数 11 万に減少、微熱も消失し、経口摂取可能となる。
考察：コロイドヨード剤の投与は、 慢性リンパ球性白血病に有効で且つ副作用なく安全に投与が可能であった。

●症例１８　　60代男性）胃がん
病状:がん患部の摘出のため開腹手術を行うも、肝臓およびリンパにがんが転移しており、手遅れ状態であったため、そのまま閉腹した。 治療：30mlのC.I.M.N.を2時間ごとに内服した。 結果：服用を始めて3ヵ月後には体重が10kg増加し、10ヵ月後には普通の勤務ができるようになった。内服を始めて15ヵ月後には、肝臓およびリンパに転移したがん腫瘍が治癒した。胃には小豆粒の腫瘍が残存したが、その後2ヵ月で完治した。

●症例１９　　30代男性）胃がん
病状：スキルス性の胃がんで、腹膜にもがんが拡がりつつあった。 治療：50mlのC.I.M.N.を2時間ごとに内服した。 結果：2週間で腫瘍が消え、その後は1日4回50mlの内服を継続し、3ヵ月後に異常なしの結果を得た。

●症例２０　　70代男性）咽頭がん
病状：大量の血を吐き、緊急入院。出血は止まったが、咽頭がんと診断された。 治療：50mlのC.I.M.N.を2時間ごとに内服 結果：2週間で腫瘍が消え、その後は50mlのC.I.M.N.を1日4回継続して内服し、3ヵ月後に異常なしの結果を得た。

●症例２１　　60代男性）咽頭がん
病状：咽頭がんでステージⅢであり、本人が手術、化学療法を拒否した。 治療：C.I.M.N.の内服を開始した(1回30mlを2時間ごとに1日8回内服）。また、吸入用ネブライザーを用いて、1回7 ～10分C.I.M.N.を1日3～5回吸入した。

結果：2週間後の検査で、腫瘍の縮小が見られ、6週間後では腫瘍が全く認められなくなった。

●症例２２　　50代男性）es状結腸がん

病状：S状結腸がんは、すでに腹膜播腫、肝転移が判明していたが、腸閉塞対策で切除を行った。通常療法を施行するならば化学療法が必須であるが、患者が拒否したためコロイダル・アイオダイン療法となった。

治療：1回30mlのC.I.M.N.を2時間ごとに1日8回内服することとしたが、自覚症状がほとんどないためかあまり熱心ではなく、1日の内服回数は2～4回だったと考えられる。1ヵ月後、手術後のCEA89は126とむしろ悪化し、食欲不振などの症状が出現してきたため、1日8回のC.I.M.N.の内服を厳守とし、週3回のC.I.M.N.の注射(1回30ml)を併用することとした。

結果：さらに1ヵ月後、CEA46、食欲、全身状態の改善がみられた。さらに2カ月後には、CEA3.6となり、画像上は完全治癒と診断された。

●症例２３　　60代女性）原発不明がん

病状：体重減少により精査の結果、骨盤内の巨大腫瘍が発見された。腸閉塞症状は見られず、少量貯留していた腹水を穿刺、細胞診した結果、腺がん細胞との所見を見たが依然として原発は不明であった

治療：C.I.M.N.の注射を主体として治療を開始した。まず、1日30mlを7日間連続で注射したところ食欲が向上し、全身倦怠感も軽減したため、さらに2日間注射を継続した。その後は週3回の注射とした

結果：　MRI 検査上は腫瘍が著明に縮小し、計3ヵ月で認められなくなった。治療中、著しく体力が向上した

●症例２４　　50代男性）口腔がん

病状：口腔がんの発見はステージI　だった。

治療：50mlのC.I.M.N.を1日3 回、口の中をすすぐようにして内服した。

結果：1ヵ月半継続して内服し、検査を受けたところ、がん細胞は消滅していた。

●症例２５　　20代女性）子宮がん

病状：子宮がんが子宮内のみならず膀胱壁まで浸潤している状態。

治療：C.I.M.N.を2時間ごとに50mlを内服した。その他、患部を徹底的に温めた。

結果：約4ヵ月後、概ね完治した。

●症例２６　　40代女性）子宮がん

病状：子宮がん

治療：50mlのC.I.M.N.を1日4 回（毎食事前と就寝前）約3ヵ月間内服した。

結果：3ヵ月後には通常の数値に回復した。

●症例２７　　30代女性）歯肉がん

病状：2012年6月に歯肉がんと診断され、7月に手術。その後、高濃度ビタミンC点滴

療法などを行う。2013年7月より全身温熱療法施行。
治療：2013年12月末より点滴(C.I.M.N. 200mlx 1/日）を10日間行う。
結果：点滴開始前は、がんによる圧迫のため会話が困難であったが、10日間の治療終了後は、スムーズに会話ができるようになっていた。

●症例２８　　80代男性）十二指腸がん

病状：十二指腸乳頭部がん、肝転移。2012年1月に上記診断、同3月に切除手術を行った。その後、肝転移を認めたため化学療法を行うも、副作用のため中止。2013 年7月より当クリニックにて全身温熱療法を施行。10月初旬の腹部CTにて、肝臓の病変に変化なく、右傍大動脈リンパ節転移を認めた。
治療：10月末よりコロイダル・アイオダイン療法(C.I.M.N.30mlx8回／日の内服、週2回の注射）を開始。
結果：11月末のMRIでは、肝転移の像は不変であったが、右傍大動脈リンパ節の腫大は消失していた。

●症例２９　　40代女性）食道がん

病状：下部食道で閉鎖しかけたステージⅣの食道がん。
治療：化学療法と放射線療法を検討していたが、完治が望めないとのことでコロイダル・アイオダイン療法を希望した。飲水は可能であったため、C.I.M.N.を1回30ml、2時間ごとに1日8回内服した。また、週5回C.I.M.N.の注射も併用した。
結果：2週間後、なんとか固形物も摂取できるようになり、4週間後には固形物を問題なく摂取できるようになった。コロイダル・アイオダイン療法開始後、3ヵ月で内視鏡上、食道がんは消失。CT画像上、縦隔リンパ節の腫脹も消失した。

●症例３０　　50代男性）食道がん

病状：食道がん術後、同縦隔リンパ節転移と肺転移あり。食道がん切除（再建胸骨後）後の再発、吻合部の再発はなし。
治療：転移のため化学療法を予定していたが、完治は望めないため、コロイダル・アイオダイン療法を希望された。1回30mlのC.I.M.N.を2時間ごとに1日8回内服することとした。
結果：1ヵ月後の検査では変化がみられなかったが、2ヵ月後には腫瘍が半分に縮小し、3ヵ月後では検出されなくなった。PET画像上も異常はみられなかった。

●症例３１　　50 代男性）腎臓がん

病状：直径7cmの左腎臓がん
治療：手術拒否のため、1回30mlのC.I.M.N.を2時間ごとに1日8回内服し、週2回の注射をした。
結果：2ヵ月後、完治と診断された

●症例３２　　70代男性）前立腺がん

病状：前立腺がんのPSA数値が6.9であった。
治療：50mlのC.I.M.N.を1日3回内服した。

結果：3ヵ月継続して検査を受け、 PSA数値は3.6と通常値に回復した。

●症例３３　　60代男性）大腸がん

病状:2006年6月大腸切除。抗がん剤を併用するも2008年12月に肝転移が認められる。

治療・結果：C.I.M.N.の内服開始後、食欲増進が出現し、その他の副作用もみられず内服開始6週間後の検査にて、CEAの減少を認める。転移発見時においても肝機能障害はない。

●症例３４　　60代女性）直腸がん

病状：2013年10月に直腸がん、肺転移、肝転移と診断された。

治療：11月より全身温熱療法、コロイダル・アイオダイン療法(10日間の注射(50mlx2回／日）、C.I.M.N.内服(30mlx8回／日）を行った。

結果：10日間の治療終了後、排便状態が改善。治療前はベッドから起き上がるのもつらい状態であったが、10日間の治療終了後は、外出も問題なくできるほどに全身状態が改善していた。2014年1月現在、連日のC.I.M.N.内服と月2回の注射を継続中である。

●症例３５　　40代女性）乳がん

病状：乳がんの摘出手術を受けるも、余命1ヵ月と宣告された。

治療：50mlのC.I.M.N.を1日3回（毎食事前）約1ヵ月間内服した。

結果：手術後4年にわたり元気に普段どおりの生活をしている。

●症例３６　　20代女性）乳がん

病状：乳がん（左乳房）の診断を受ける。

治療：最初は抗がん剤と放射線治療を併用して治療を始めたが治療に耐えられず50mlのC.I.M.N.を2時間ごとに内服した。また患部を入浴などにより温めることに努めた。

結果：2週間後には腫瘍の縮小を自覚でき、3ヵ月後には消滅した。

●症例３７　　50代女性）乳がん

病状：右乳がん(3.9cmx3.5cm)。リンパ節転移あり、1cmほどのがんが複数みられる。ステージⅢ。

治療：コロイダル・アイオダイン療法を開始（注射3日に1回30mlx5回、C.I.M.N.内服1日に4回30ml/回）

結果：治療開始から9日後の検査で右乳がんが3 .4cm x 3 .4cmに縮小。さらに1ヵ月後の検査では2.8cmx2.8cmへと縮小しているのが確認された。さらに1ヵ月後には腋下リンパ節の転移が米粒大となった。治療開始から4ヵ月間内服を続けた。体調が良く乳がんも縮小がみられ、リンパ節転移がんは消失した。

●症例３８　　60代男性）肺がん（腺がん）

病状：右胸水により発見された腺がん（ステージⅣ)。手術適応なく、化学療法を施行するも、全身倦怠感、嘔気、嘔吐が強く断念した。

治療：週5回のC.I.M.N.の注射を開始した。(1回30ml)、3週間後、胸部単純X線上明らか

な改善が見られ、労作時の呼吸困難が改善されたため、本人の希望により注射を週2回とし、1回30ml、2時間ごとに1日8回のC.I.M.N.の内服を主体とした。
結果：計7週で胸部CT上異常を認めない。

●症例39　30代女性）悪性リンパ腫
病状：咽頭の上部に白苔があり、だるさ、食欲不振、体重低下がみられたが、病名を特定できずに6ヶ月以上放射線を喉に照射。そのため粘膜障害がひどく、水も飲めない程になった。4月中旬ごろから脱水症状がでて、めまいや嘔吐を繰り返す。
治療：抗がん剤は効果がなく、放射線治療後もがん細胞がなくなっていないため自家移植を勧められ、それでもだめならそのあとは緩和ケアになるといわれたため、辞退してコロイダル・アイオダイン療法（点滴9日間、内服18日間）に移行。
結果：2012年、内服終了日翌日のPET検査で完全寛解と診断された。その後もハーブ免疫療法＋ハーブ飲用＋食事療法を行い、2014年現在再発無し。

●症例４０　30代女性）悪性リンパ腫
病状：ステージ3bの悪性リンパ腫であり、右頸部に直径2cm程度のリンパ節腫脹が認められた。
治療：化学療法を先延ばしとし、コロイダル・アイオダイン療法を実施した。週6回の注射(1回30ml)を2週間連続で行い、この時点での頸部のリンパ節腫脹は認められなくなった。その後は、週3回の注射とし、1回30ml、2 時間ごとに1日8回のC.I.M.N.の内服を併用した。
結果：約2カ月で完全寛解と診断され、化学療法は中止となり経過観察となったが、3年経過した現在でも再発は認められない。

●症例４１　20代女性）てんかん
病状：てんかん発作に悩まされていた。
治療：C.I.M.N.注射を週2回続けた。
結果：1ヵ月後には、まったく発作が起こらなくなった。

●症例４２　70代女性）認知症
病状：認知症と診断された1ヵ月前からつじつまのあわない発言をするようになった。
治療：家族の希望で、C.I.M.N.の内服を開始。
結果：3 ヵ月後には、家族との会話も問題なく、元気に生活できるようになった。

●症例４３　60代女性）白血病
病状：白血病で余命3週間と宣告された。
治療：30mlのC.I.M.N.の注射を1日1回行ったところ、1ヵ月で末梢血の腫瘍細胞が消滅した。その後1ヵ月同注射を継続して行った。
結果：現在は元気に通常の生活をしている。

●症例４４　60代男性）脳血栓
病状：左腕がマヒし、夜就寝時の痛みに悩まされる。
治療：50mlのC.I.M.N.を1日3回内服した。

結果：約1ヵ月後には痛みが緩和され、マヒした左腕は1ヵ月後には動くようになった。
その後、継続して内服し、言語障害もあったが、4カ月後には改善した。

●症例４５　　50代男性）脳梗塞

病状：ホテル警備員として勤務中に倒れ、救急病院に搬送。脳梗塞と診断。顔面マヒがひどく、医師に社会復帰は困難だと言われた。

治療：発病当日からC.I.M.N. を水代わりに少しずつ、できる限り回数多く内服するように勧め、患者は実行した。

結果：１ヵ月後、顔面マヒは他覚的にはほとんどわからなくなり退院。その後1ヵ月自宅療養した結果、言語障害もなくなり、発病から3ヵ月後には職場復帰した。5ヵ月後には平衡感覚も戻った。概ね、1回50mlの内服を継続した結果だった。

●症例４６　　60代男性）脳腫瘍

病状：頭痛と物忘れが激しいため、大学病院にて診断の結果、脳腫瘍と診断された。

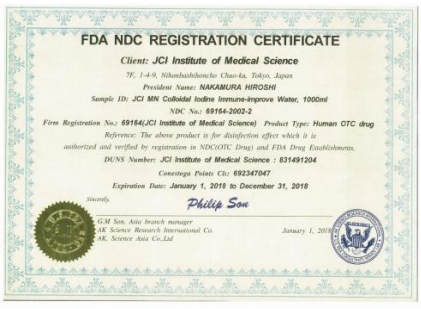
治療：1日3回、50mlのC.I.M.N.を2ヵ月継続して内服した。

結果：同大学病院にて検査の結果、完治していた。

【会員医師 / 医療機関用資料】

米国FDA（NDC/Human OTC Drug認証取得）
JCI MNコロイダル・アイオダイン（C.I.M.N.）

臨床研究会･治療プロトコル/46症例


FDA NDC REGISTRATION CERTIFICATE

Client: JCI Institute of Medical Science

7F, 1-4-9, Nihonbashihoncho Chuo-ku, Tokyo, Japan

President Name: NAKAMURA HIROSHI

Sample ID: JCI MN Colloidal Iodine Immune-improve Water, 1000ml

NDC No.: 69164-2002-2

Firm Registration No.: 69164(JCI Institute of Medical Science) Product Type: Human OTC drug

Reference: The above product is for disinfection effect which it is authorized and verified by registration in NDC(OTC Drug) and FDA Drug Establishments.

DUNS Number: JCI Institute of Medical Science : 831491204

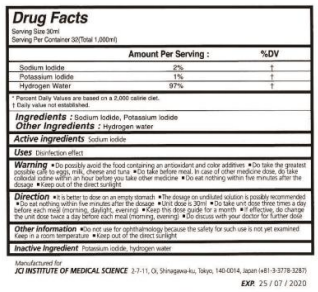
Conestega Point Ch: 692347047

Expiration Date: January 1, 2018 to December 31, 2018

Sincerely, Philip Son

G.M Son, Asia branch manager
J.K. Science Research International Co.
J.K. Science Asia Co.,Ltd

January 1, 2018


Drug Facts

Serving Size 30ml
Serving Per Container 32(Total 1,000ml)

Amount Per Serving :	%DV
Sodium Iodide	2% †
Potassium Iodide	1% †
Hydrogen Water	97% †

† Percent Daily Values are based on a 2,000 calorie diet.
‡ Daily value not established.

Ingredients : Sodium Iodide, Potassium Iodide
Other Ingredients : Hydrogen water
Active ingredients Sodium Iodide
Uses Disinfection effect
Warning •Do possibly avoid the food containing an antioxidant and color additives •Do take the greatest possible care to eggs, milk, cheese and tuna •Do take before meal. In case of other medicine dose, do take colloidal iodine within an hour before you take other medicine •Do eat nothing within five minutes after the dosage •Keep out of the direct sunlight
Direction •It is better to dose on an empty stomach •The dosage on undiluted solution is possible recommended before each meal (morning, daylight, evening) •Unit dose is 30ml •Do take unit dose three times a day before each meal (morning, daylight, evening) •Keep this dose guide for a month •If effective, do change the unit dose twice a day before each meal (morning, evening) •Do discuss with your doctor for further dose
Other Information •Do not use for ophthalmology because the safety for such use is not yet examined Keep in a room temperature •Keep out of the direct sunlight
Inactive Ingredient Potassium iodide, hydrogen water

Manufactured for
JCI INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE 2-7-11, Oi, Shinagawa-ku, Tokyo, 140-0014, Japan (+81-3-3778-3287)
EXP. 25 / 07 / 2020

＜お問い合わせ先＞一般社団法人 日本先進医療臨床研究会
〒103-0028　東京都中央区八重洲1-8-17-6F
TEL: 03-5542-1597　FAX: 03-4333-0803

※ご注意：本製剤の一般販売は行っておりません。